

移動を一齐に再開する方式を採用しており、安全な移動を可能にしています。

その後、南側へスライドされた鉄骨は二週間ほどかけて解体していきます。その一スパンの屋根及び壁の鉄骨(約一四〇トン)を解体した後、次のスライド工法を行う準備段階として、スライドに必要な設備の組み立てを行いつつ、妻面(南北面)の壁の解体や、スライド部と非スライド部の縁切りを行います。そして、この作業を全部で九回繰り返して、素屋根解体のスライド部分が完了となります。さらに最後に素屋根の基礎を解体し、全ての解体工事が完了となります。

全容が現れるまでには、およそ四ヵ月ほどかかります。仮設素屋根解体工事に伴い、騒音等によりご迷惑をおかけしますが、安全第一で進めてまいりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

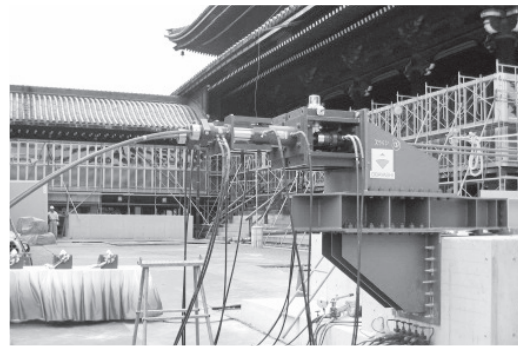


# 御修復のあゆみ

〳 伝承された先達の願い〳

## 阿弥陀堂仮設素屋根解体工事 一回目のスライド始まる

本誌三月号では、阿弥陀堂仮設素屋根解体工事の概要についてお伝えしました。今回は、四月二十三日に行われた一回目の仮設素屋根のスライドの様子と今後の解体工事についてお伝えします。



70トンセンターホールジャッキ ※1



チルトンク(ローラー) ※2

この素屋根の構造規模は鉄骨造りの地上三階建て(約二十メートル)で、建築面積が六、六七五平方メートル、延床面積が一三、二四九、三平方メートル、高さが五十一メートル、スライド

する鉄骨の総重量は一、三五〇トンあります。

今回のスライド工法では、素屋根の下部にチルトンク(ローラー※2)とレールを設置し、素屋根全体を南側に平行移動させていきます。総移動距離は約六十三メートルとなるため、その動力には四台の七十トンセンターホールジャッキ※1等を採用し、断続的(一回につき約十七センチ移動を四十回繰り返す作業)に牽引を行います。

東西に据えられた四台のジャッキは、センサーを用いて移動距離を制御しています。移動中



白洲から見た様子

に各ジャッキの変位差が十ミリを越えた場合、突出したジャッキが自動停止し、変位差が解消された段階で次のステップへの

### 「渉成園 春の自然観察会を開催！」



散策しながら講師のお話を聞く

4月11日、東本願寺と環境を考える市民プロジェクト主催による「渉成園(枳殻邸)春の自然観察会『いきもの観察 広いお庭で春を見つけよう』」が渉成園を会場に開催されました。

近隣の住人をはじめ、大人から子どもまで約40名の方が参加し、講師の板倉豊氏(京都精華大学・森林インストラクター)のお話を聞き、春の花や葉の観察や小川の小さな生き物探しをしながら散策しました。最後に、園内の臨池亭にて、参加者が採集した植物で図鑑(実際にCDケースを使用して採集したものを貼り付ける)を作る作業を行いました。

参加者それぞれが工夫した図鑑作りに夢中になって出来上がった「私だけの植物立体図鑑」は、個性あふれたものが出来、参加者は「いろんな植物によっていろいろと違いがあって楽しい」と、自分で作った図鑑に喜びの表情を浮かべていました。



小川の小さな生き物探し



採集した植物での図鑑作りに夢中